

東京都教育委員会(多摩科学技術高校)と東京農工大学の連携による 「高大連携教育プログラム」について

- ◇ 東京都が設置する科学技術科の高校2校については、大学等との連携により、高校段階から先端的な科学技術に触れつつ、研究活動にも携わることで、科学技術分野の素養を習得し、理系学科への進学を目指す専門高校としての地位を確立。
- ◇ 一方で、これらの高校においても、本来であれば、高校3年間の学びの集大成として、より高度な研究活動に挑戦できる高校3年生の段階には、大学入試等への対応に迫られ、必ずしも十分な時間を研究活動等に割く余裕がないのが現状。
- ◇ また、大学進学後、学部1，2年生の段階では、教養教育に重点を置く大学が多く、その結果、高校3年間で培った将来の研究者としての素養や研究への意欲・態度等を、大学での専門的な学びにつなげることが難しいといった意見もある。

高大連携

大学の教育・研究力を活用した教育活動を高校に導入することで、**将来の研究者としての素養をより高めるとともに、**
 学びの成果を適切に評価し、大学での学びに円滑に接続させることで、**高校と大学を一貫した教育カリキュラムを実現**

世界の第一線で活躍する高度イノベーション人材の養成

「高大連携教育プログラム」のイメージ

※下記はイメージであり、プログラムの実施規模や内容や導入年度等の詳細については、平成31年度に検討を行う予定。

- ① 高校・大学（学部、大学院）において、将来の研究者としての素養を一貫して育成 **⇒ 高大一貫カリキュラム**
- ② 大学教員が高校教員とともに、高校における学びの成果を総合的に評価し、その結果を大学入試に反映 **⇒ 多面的・総合的評価**
- ③ 大学入学後の状況を高校に定期的にフィードバックし、①を改善・充実 **⇒ PDCAサイクル**

以上について、多摩科学技術高校を拠点とした研究開発を実施。その後、その検証を行い、他の高校への拡大を含めた見直しを検討。

